

「パミール・天山 7,000m の峰々からヒマラヤの高峰へ」
—タジキスタン、キルギス、カザフスタンの山々、8,000m 峰 9 座の山頂—

登山家、高峰ガイド、日本勤労者山岳連盟名誉会員、
日本山岳協会国際委員、Snow Leopard award 受賞者
近藤 和美

NO LIMIT! 一限りなき山行— 高峰登山家として育ててくれたパミール・天山

1941 年 11 月、名古屋市生まれ、75 歳。戦後の混乱期に父の病気もあって極貧生活を送った。

59 年、17 歳で上京・就職。軽登山に触れ、以後次第に岩登り・冬山の世界に進む。鹿島槍北壁・荒沢奥壁、不帰東面、越後荒沢山東面などでいくつかの冬季初登攀などの足跡を残す。

1972 年に初の海外登山としてアルプスに赴き、マッターホルン北壁ほかを登攀。76 年、勤めていた印刷会社を辞して、初のヒマラヤ遠征。インドの 6800m 前後の 2 座を縦走。

84 年に初めてソ連領（当時）パミールを訪れ、7000m 2 座に登頂。2 年後に再訪して、前回触れなかった最高峰コムニズム（7495m）を含めた 3 山に登頂。

89 年、西側登山家に解禁された天山山脈を訪れ、ハンテングリ（7010m）日本人初登頂。ソ連山岳連盟制定の「雪豹」称号を得る。91 年には同山脈最高峰のポベーダ（7439m）にも登頂して、これでソ連領の 7000m 峰全 5 座を完登。ソ連はこの年の末に解体されたので、私は西側登山家として最初にして最後の 5 座完登の雪豹登山家となった。

[ガウリシャンカールを背後にヤルンリにて（2016 年 10 月）](#)



翌 92 年、50 歳にして初の 8000m 峰チョーオユーに無酸素登頂。以後 25 年間に 22 回 8000m 峰に挑む。

最初のチョーオユーを除いて全て隊長を務め、自身も 9 座に延べ 10 回登頂した。61 歳時に登頂したガッシャーブルム 2 峰は 8000m 峰無酸素登頂の日本人最高齢記録で、13 年間更新されていない。

これらの成果も 40 歳代に足しげく通ったパミール・天山でのセミアルパインスタイルによる高峰登山経験が下地になった賜物と考えている。

青壮年期には一線級クライマーを自負していたが、今はピークハンターが自分の本質なのかなと思ったりしている。私の膨大な遠征リストは別途配布の資料を参照されたい。

仕事は 77～84 年は日本勤労者山岳連盟発行の「山と仲間」誌の編集、85～92 年はフリーランスとして『山岳年鑑』などの編集に携るが、87 年以降は徐々に登山ガイド、特に高峰登山リーダー、ガイド業に軸足を移した。著書・編著書として『魅惑の氷壁』『山—生きる・学ぶ・探る』『冬山』『谷川岳・苗場山・武尊山』など。（元 パミール中央アジア研究会会員）